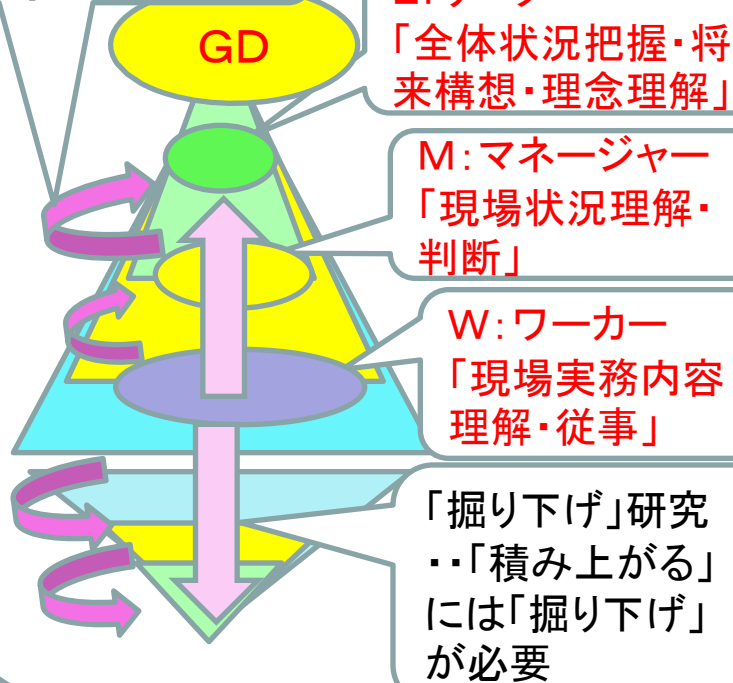


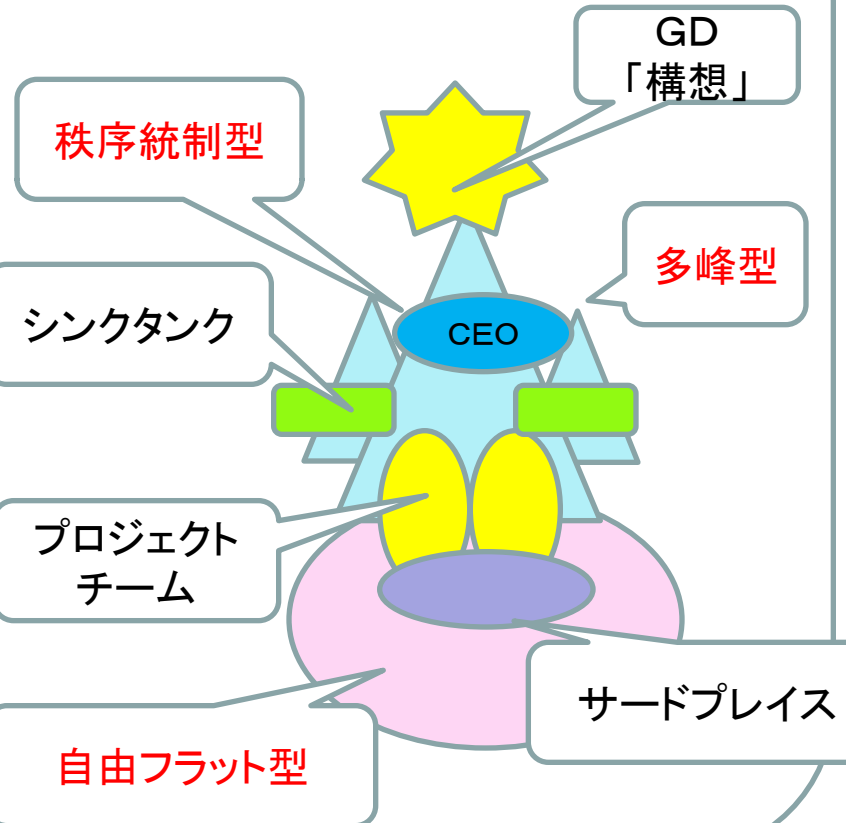
最適「組織構造」の検討・ 「組織制度・人材の検討」

「重層柔軟人材」メンタル育成

「積み上げ」研修
・・現状を前提とした対応



「重層柔構造」システム組織



「左図」=WMLへと人材は積み上がり成長する・・実は、それには「掘り下げ」が必要だ。
「右図」=自由と秩序の重層型が最適組織。2つの組織(○と△)の接合が必要
・・それが「シンクタンク」と「プロジェクトチーム」・「サードプレイス」の制度だ。

「解説」・人材育成とシステム

- ◎「左図」は、全人型の人材育成・現場からマネージャーへ、そしてリーダーへという総合的な学びであることの図
 - ・学びでは、順次「積み上げ」て能力を高めるが、本当に高まるには、「掘り下げ」が必要であることを示したもの・その理由の解説は後のシートで
- ◎「右図」は、組織のシステムとして、自由と秩序の二重構造が最良であり、その接続には柔軟性のあるサブ組織が必要とする図
 - ・これについては、「組織論」で詳しく述べているが、この「学習論」では、その組織運営に当たる「人材育成」をポイントとしている・これについては後のシートで説明

組織の成長と「個人意識」の変化

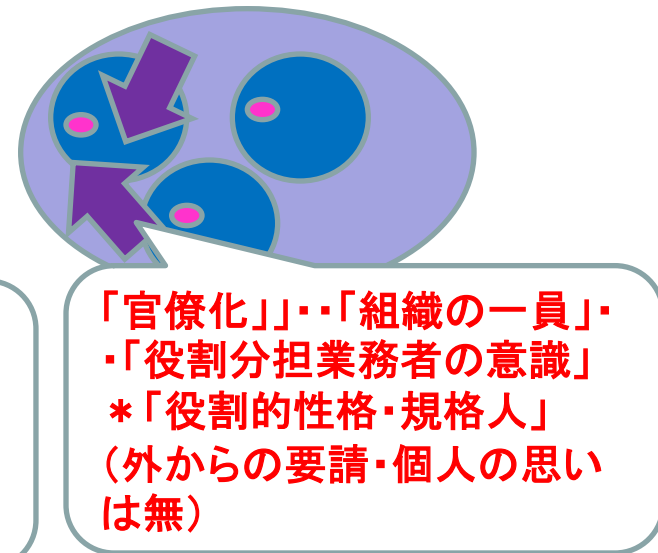
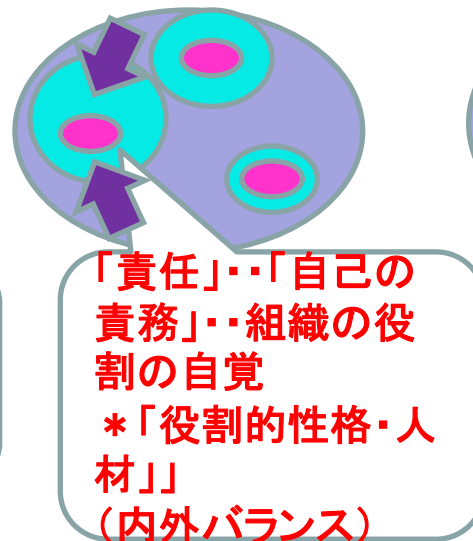
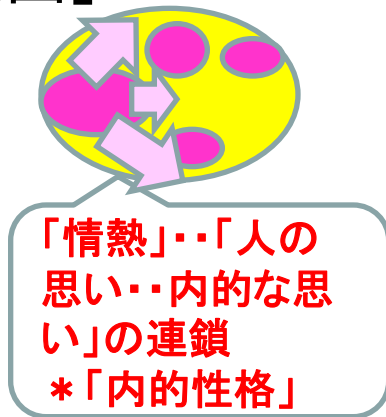
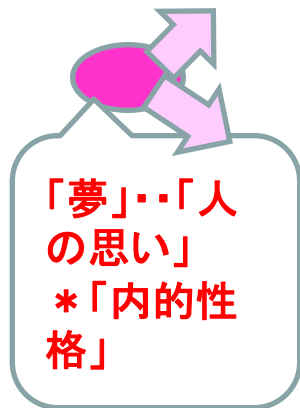
◎「組織構造」の変遷(小から大)によって、意識も変化する

* その傾向＝「個人から集団さらに組織へ」(「個人消滅」の法則＝(「私が・・・」～「皆で・・・」～「組織で・・・」へと変遷)

人は・・・「人」・「人材」・「規格人」へと意識が変わる・・・

◎「夢」・「情熱」・「責任」・・・「官僚化」へと意識が変化し、個人が消滅し、組織実体は形骸化する

* 「意識図」



「解説」・・人のあり方を決めるもの・・学び

「ものの興廃は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道(学び)あり」(空海)

- ◎人の作る集団(社会組織やその他企業組織など)は、システムを持つが、その中で動くのは「人」である
 - ・・この「人」がどういう常態であるかが、その組織のシステムの運営の決め手となる・・「良い組織には良い人がいる」
- ◎「良い人」とは・・「知識や技能の有能な人」・「物事や人に対して謙虚な人」であろう・・しかし・・
 - ・・この2つは相反しやすい・・有能者は謙虚になれない
 - ・・だから、組織は有能者で大きくなる(「有能人材」)・・しかし・
 - ・謙虚さを失い・(・組織順応「規格人」)となり・・組織は形式化・形骸化し(形式での運用)・・やがて崩壊する
- ◎これを防ぐには・・人材育成で・・「有能」学習とともに、「謙虚」学習が必要・・(これは「頭学習」では無理なので体験が必須か)・・

「組織改善のために学校ができること」

・「個upと相互関係up」のための教育・

「最良組織」を「人」からの視点で検討すると

組織法則＝個人力×協力の質と量

力量ある個の奢り

②「教育の仕事」・・・
個の奢りへの戒め

「個の力
量」

「最良組織」
個の力量強
+相互協力

⑤「教育の仕事」・・・
最良プランへの協力

「最悪組織」
力量強の個
・相互不信・対
立

④「教育の仕事」・・・
個の内省(契機は自
己の限界・挫折経験
など)を支える・・・「心
のサポート」

「未熟組織」
個の力量弱
+相互協力

③「教育の仕事」・・・
個の成長への叱咤・
馴れ合いへの警告

「最低組織」
力量弱の個・相互
不信・対立

①「教育の仕事」・・・個
の力量up(「知徳体」で
の育成)

「相互関
係力」

「解説」・・・「教育の仕事」・・・最良組織は力量ある個人の相互協力の状態・・・それには、まずは①「力量up」の仕事がある・・・だが、力量があると相互対立も起きる・・・②それへの「戒め」や、③「力量不足での馴れ合い」への「叱咤」・・・さらに、相互対立で挫折・限界に陥った④「個の再生の支援」の仕事・・・そして、最後に⑤「最良組織プラン作成へのアドバイス」の仕事となる

「解説」＝積み上げと掘り下げ

- ◎「積み上げ」・・・一般にいわれるように、学校では、「有能」になるように「知識や技能の増加や高まり」を学ばせる・・・これが「学力」とされ、学力向上が課題となる・・・「順位や偏差値」は重要課題です・・・
- ◎「掘り下げ」・・・しかし、積み上がらない状態(自信喪失)に必ず直面する・・・
 - *「知・技能」では、その時、「知の掘り下げ」(探究)が必要だと分かると学力はさらに前進する・・・(これが本「学習論」の要点)
 - *「心の掘り下げ」では、自己成長の限界や社会体験での失敗(「負け体験」)による「挫折」体験時に、「自分を失い、人を失い」(「自信喪失」)状態になるが、「掘り下げない」で他者に当たるだけの人になるか、「掘り下げ」て他者を発見する人になるか・・・それはその人の「総合力」の分かれ目です・・・「青年期」はこの時代・・・(中高学校の大きな課題です)
・・・多くの方は、前者の「掘り下げない」状態です(・私もそう・・・)・・・だからこそ、後者の「掘り下げ」学習は重要です。
- ◎しかし、学校では、これについての「学びの場」の自覚と整備がありません・・・「生徒会活動」や「クラブ活動」・・・さらには「社会体験・ボラ活動」の重要性がもっと認識され、力点が置かれるべきです